

PRAEVIDENTIA DAILY (4月24日)

昨日までの世界：豪早期利上げ期待が後退

昨日は各通貨でまちまちの動きとなったが、中では豪 CPI の予想比下振れを受けた豪ドル安が顕著だった。豪 1QCPI は総合が前年比+2.9%と、前期の+2.7%より加速したものの市場予想の+3.2%ほどには上昇せず、コアインフレ率（刈込平均、加重中央値）も各々+2.6%、+2.7%と市場予想の+2.9%を下回り、RBA のインフレ目標の上限である 3%に届かなかったことから、早期利上げ期待が後退し豪ドルは大きく下落、対米ドルで 0.937 ドルから一時 0.9268 ドルへ、対円では 96.2 円から一時 94.81 円へ下落した。豪ドル/米ドルは 4 月 10 日の高値である 0.9461 ドルからの下落基調が明確となり、目先は好材料を全て織り込み、ここから再び上昇基調に転じるには豪失業率の大幅低下の継続や米景気の大悪化を受けた米ドル安が必要だろう（当社はこのいずれも想定しておらず、豪ドル安継続を予想）。

ユーロは PMI 発表を巡って上下に振れたが、結果として前日比横ばい圏内での動きとなった。最初に発表されたフランス分が市場予想を下回ったことから一旦下落した後、その後発表のドイツ分およびユーロ圏分が総じて前月および市場予想を上回る良好な結果となったことから、対ドルで 1.38 ドル丁度近辺から一時 1.3855 ドルへ上昇した。但し上値も重く、その後再び 1.38 ドル台前半へ軟化している。

ドル/円は、欧州時間入り後に一時 102.17 円へ下落、その後も米新築住宅販売件数が 384 万件と前月の 44.0 万人、市場予想の 45.0 万件を大きく下回ったこともあって、102 円台前半で軟調に推移したが、本日早朝にかけては米企業決算の好調を受けた米株価先物や米長期債利回りの持ち直しもあって、再び 102 円台半ばに戻っており、引き続き 102 円台半ばを挟んだ方向感のない展開が続いている。なお、ウクライナ政府が同国東部州における親ロシア派の掃討再開を発表したことから、地政学リスクの高まりも嫌気され米長期債利回りの低下圧力を通じてドル/円にも下押し圧力となった。

なお、本日早朝に RBNZ が市場予想通り政策金利を 25bps 引上げ 3.00%とした後、NZ ドルは上昇した。NZ ドルに関しては、前回と同様に「NZ ドル高が貿易セクターの向かい風で、RBNZ は現在の水準が持続可能とみていない」とされたが、将来の利上げペースに関連して、NZ ドル高がインフレを押し下げる程度も考慮して決定される、という表現が追加され、NZ ドルの更なる上昇がインフレを押し下げる場合には利上げペースが鈍化させる可能性を示唆したかたちとなっているが、市場は意に介せず NZ ドルは堅調に推移している。RBNZ が NZ ドル高牽制を強めるリスクは高まっているとみられ、今後の Wheeler 総裁などの RBNZ 高官発言に注意する必要がある。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	-0.1	+0.04	+0.04	-0.00	-0.02	-0.01	+0.01	-0.2	+1.1	-0.3	-0.1
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	+0.1	-0.04	+0.00	+0.04	-0.00	-0.01	-0.01	-0.6	-0.2	-0.1	-0.00
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.2	-0.07	-0.03	+0.04	-0.02	-0.03	-0.01	-0.1	-0.2		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	-0.8	-0.09	-0.05	+0.04	-0.03	-0.04	-0.01	-0.2	-0.3	+0.1	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-0.2	-0.08	-0.04	+0.04	-0.02	-0.03	-0.01	-0.2	-0.3	+0.1	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	+0.1	+0.05	+0.04	-0.00	+0.00	-0.01	-0.01	-0.2	-0.3	+0.1	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：景気鈍化と追加緩和への期待主導でユーロ安

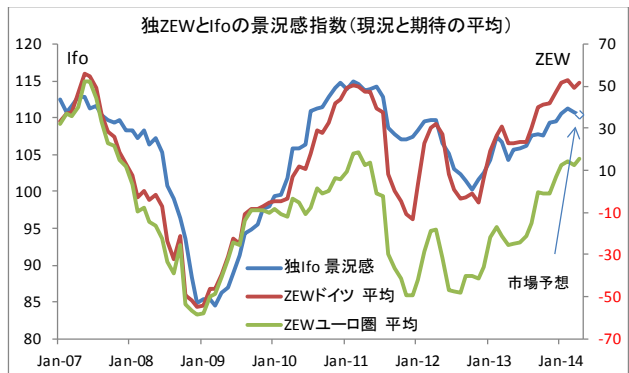
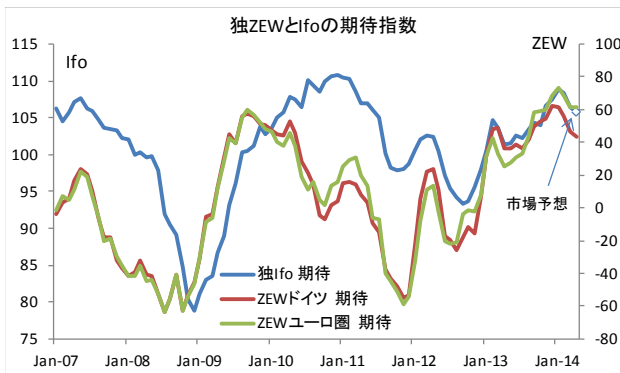
きょうの注目通貨：EUR↓

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
独 Ifo 景況感指数	17:00	110.7	110.4	
Knot オランダ中銀総裁発言	17:30			
Draghi・ECB 総裁発言	18:00			
米3月耐久財受注・総合・前月比	21:30	+2.2%	+2.0%	
同・除く輸送用機器・前月比		+0.1%	+0.6%	
同・コア資本財受注・前月比		-1.4%	+1.4%	設備投資の先行指標
同・コア資本財出荷・前月比		+0.6%	+1.0%	GDP算出に使用
米新規失業保険申請件数	21:30	30.4万件	31.5万件	
Constancio・ECB 副総裁発言	1:15			

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本日はユーロ関連で、独 Ifo 景況感指数と Draghi 総裁発言が注目される。昨日発表のドイツ分およびユーロ圏分 PMI は改善したが、本日発表のドイツ Ifo 景況感指数（現況指数と期待指数の平均で算出）については、ZEW 指数と同様に期待指数が主導してピークアウト・悪化基調となっており、市場予想通りに悪化すると ECB の追加緩和期待を高める方向に働くだろう（下図を参照）。また Draghi 総裁発言では、次回政策理事会（5月8日）前に発表される4月分 HICP がどの程度持ち直すと ECB が見ているかや、このところドイツのメディアで報道されている ECB 内部における量的緩和検討について、更なる説明があるかが注目される。5月理事会あるいは今後の理事会における量的緩和あるいは何らかのかたちの金融緩和策発表の可能性の高まりを示唆する内容となれば、こちらもユーロ安要因となるだろう（ECB 追加緩和シナリオとユーロ見通しについては当社直近週次レポート「EUR：円化の花道を回避できるか」をご覧ください）。

ドル/円は引き続き方向感のない展開が続くとみられる。本日発表の米経済指標でも、耐久財受注は総じて前月上昇が予想されている一方、新規失業保険申請件数は前月の低水準から増加が予想されており、米長期債利回りやドル/円に強い方向性を与える結果とはならないとみられる。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。
 当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641